

令和6年度の学校評価結果と令和7年度の推進策について

学校評価は、教育活動や学校運営などの改善・充実を図り、より質の高い学校教育の実現をめざして行うものです。

今年度も本校では、生徒・保護者・地域を対象とした学校関係者評価アンケートを実施しました。また、校内でも、新たな世田谷区教育振興基本計画及び学校経営方針に基づいた点検・評価を行い、これらの結果を学校関係者評価委員会に提出しました。

このたび受け取った学校関係者評価委員会からの報告書と本校の自己評価を踏まえ、「令和6年度の成果と課題」・「令和7年度の学校経営推進策」について、お知らせします。

令和6年度の成果と課題

Ⅰ 重点目標について

(1)生徒の主体的な学びを支え、学びの自立を図る。

昨年度の学校だより1月号で、この重点目標に関する生徒対象設問「『私は計画的に、粘り強く学習できるようになってきたと思う。』を高めていくことが大事だと考えます。」と書いた。今年度はどうであったかを注視してみると、1年生の肯定的回答が最も高かった（肯定的回答75.9%）点が目に留まった。おそらく、小学生の時との取り組み方の違いを実感しているからだと考えられる。

学習に関する生徒への設問の中で、最も肯定的回答の割合が高かったのは、今年度も「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」という設問であった。（94.1% 昨年度比+1.3%）主体的な学びには欠かせないことであり、これからも大事にし、成果を高めていきたい。

教員自己評価では、「学びに向かう力を高める工夫をしている。」は、昨年度とほぼ同じ割合の肯定的回答（95%）があり、良好な結果であった。

(2)これからの社会に必要な社会性を身に付け、さらに伸ばしていく。

本校は、「あいさつ・時間・意思決定」を社会生活に直結する3要素と捉えている。3学期始業式の日には、生徒指導主任が「3学期は生徒も先生も一緒に自分からあいさつすることを心掛け、あいさつ溢れる世田谷中にしよう。先生たちは授業をチャイムで始め、チャイムで終わることを確認したので、みんなも時間を意識して生活しよう。」と呼びかけた。教員自己評価では、「あいさつの大切さを教員が認識し、手本を示せる学校にしたい。」「あいさつができない生徒が多いと感じている。」という自由記述があり、生徒の自由記述には、「先生がよく授業遅刻する。それなのに、生徒の

遅刻には厳しい。」というものがあつたからである。

3年生の面接練習で、「世田谷中は学校のきまりを生徒で話し合える学校です。」と答えた生徒がいたことはうれしい出来事であつた。生徒対象設問「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。」の肯定的評価は昨年度よりも上昇した。(78.0%→80.8%)

(3)自らの学習や生活の中・長期的な視点で見つめ、キャリア発達を促す。

キャリア教育に関する生徒対象設問で肯定的回答が最も伸びたのが、「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある。」という設問であつた。(77.5%→83.6%) 本年度はSDGsに関する学習を1、2年生で取り入れたり、地域の方々の協力を仰いで、働く方からお話を伺う会を1年生対象に行ったりもした。

生徒自身が自分の生活をデザインしていく道具として重視しているキャリア・パスポートの活用については、教員の肯定的回答は増加傾向にある一方、生徒対象設問「私はキャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。」の回答状況を見ると、1年生は肯定的回答が83%であるのに対し、上級学年では60%台に留まっている。継続して取り組んでいることが「悪い慣れ」にならないよう、生徒に働きかける必要性を感じている。

II 保護者・地域からのアンケート結果から

(1) 保護者アンケート

回収率は昨年度より11.9%下がり、45.4%であつた。学校が、よりよい方向に動いていくためには、生徒はもとより、保護者にどのような意識の傾向があるのかを知ることは欠かせない。次年度は、昨年度の回収率(57.3%)以上の協力が得られることをめざし、本アンケートの重要性を周知していく。

アンケートの項目から見ると、本年度も「学校行事」に対する満足度が最も高かつた。また、「学校からの情報提供」に関する設問で、昨年度より肯定的回答が増えている。否定的回答が目立った設問のうち、「私は、学校公開にすすんで参加している。」(48.6%)、「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」(30.5%)は、次年度はぜひ上昇させたい設問である。

(2) 地域アンケート

回収率は62.9%(昨年度比+7.1%)であつた。

昨年度同様、肯定的回答が最も多かつたのが、「学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子がわかる。」(90.9%)であり、この割合は保護者よりも高い。生徒に直接かわる設問で、「生徒たちは、自ら進んでボランティア活動に関わろうとしている。」(72, 2%)を高めていきたい。

令和7年度学校経営推進策

1 授業時数の確保と働き方改革の推進を両立した教育課程を実施する。

月に1度の土曜授業がなくなる（振替休業日を設ける場合を除く）ことから、これまでの教育課程を見直し、質の担保と向上、内容の焦点化を進める。

- ①学校公開日は、これまで通り各学期3日ずつを継続し、土曜日の授業公開を1月の作品展示会期間中に設ける。
- ②3学期に行っていた校外学習は、2年生のみ実施する。
- ③10月下旬の3年生三者面談期間は、全学年午前授業とする。
- ④1・2学期の大掃除は、終業式の日に行う。
- ⑤月曜日を「美化を考える日」とし、原則、清掃活動を行わず、放課後の時間確保をする。
- ⑥長期休業中に行っていた検定対策講座は、参加者数が少ないことから、実施しないこととする。
- ⑦F組の合同マラソン大会は、校内マラソン記録会に変更して行う。

2 探究的な学びを活かした授業づくりを行う。

「教える」「教わる」に終始した授業から脱し、生徒が見出した課題（問い）から出発する授業を各教科で採り入れていく。こうした学習を、総合的な学習の時間で着実に実施し、そのスタイルを生徒が身に付けることを支援していく。

3 よりよい学校生活を生徒と教員が共に考えていく。

これまでの学校のきまりを再構成した「世田谷中学校 学校の過ごし方」を基に、学校での生活のあり方（「服装を考える日」を含む）を生徒と教員が一緒に考えていく。意見を表明する大切さと「みんなで決めたことはみんなが守る」ことの大切さを共に重視して指導する。

4 キャリア教育の充実を進める。

学校関係者評価報告書の「学校への提言」は、「学校スローガンの実現に向けて、キャリア教育の推進と更なる定着を強く望む。」という内容で始まっている。引き続き、このことを学校の重点目標の1つとする。今年度に課題となった、上級学年の生徒が「キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動できる」よう、月1度のキャリアパス・デーの使い方や教育相談の方法を学校全体で確認していく。

5 チーム学級（学年）の機能を、より強化する。

今年度に導入した F 組と I 組の複数担任制による学級運営を、次年度も継続する。また、生徒数が増加しているねいろ分教室においても、複眼での生徒理解と対応力を強化するために、複数担任制を始める。

本校通常の学年でも、学年のチーム力をこれまで以上に発揮できるよう、担任以外の教育相談や学年教員のローテーション給食指導など、学年の実態に合わせて柔軟に運営していく。

6 学び舎の環境を成長に活かす。

地域での経験や貢献によって生徒が自己肯定感や自信を醸成できるよう、ボランティア体験を奨励していく。単なるお知らせではなく、「自分にとって」という視点で地域との関わりを考えられるよう支援する。

小・中学生の発達段階と情報社会の現状を踏まえて、杜の学び舎 SNS ルールを見直し、効果を高めることをめざす。

働き方改革の推進について

社会問題の 1 つになっている教員の働き方改革は、教員の働き方が明らかに改まることと、学校教育の質が高まることを共に成り立たせる必要がある。このことを学校・保護者・地域で共有し、実感を伴う変化に努める。本区の「学校における働き方改革推進プラン（仮称・令和 6 年度中に策定予定）」に基づき、中学校特有の問題である部活動の指導、学校独自に改正できる時程や教育活動の年間計画について、見直しを続ける。